

NO!リニア

No. 9 1

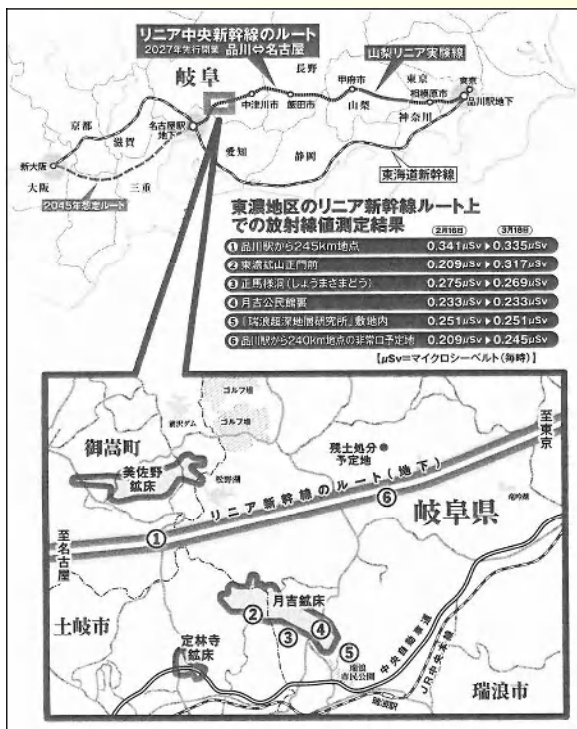
2016年4月26日

JR東海労働組合
リニア反対プロジェクト

リニア建設予定地から放射線量検出！ 何と、被ばく許容量の約3倍 これでも工事を強行するのか？

岐阜県東濃地区は、国内有数のウラン鉱床地帯です。過去、原発の燃料を発掘していた時期がありますが、現在では発掘はしていません。その一帯が、リニア建設予定地とされています。

4月11日発売の週刊『プレイボーイ』は、リニア建設予定地の品川起点245km地点から、最大で毎時0.341マイクロシーベルト（年間換算2.987ミリシーベルト）の放射線量を検出したと報道しました。この数値は、国際的な被ばく許容量（年間1ミリシーベルト）の3倍弱という驚くべき数値です。しかも、ボーリング調査はわずか1本だけというのです。そもそも、JR東海はウランが発掘されないことを前提にリニア建設を計画しています。



危機感を持った一般住民がJR東海・中央新幹線岐阜工事事務所に問い合わせたところ、「今後検討する。住民説明会は行う」だけで、具体的な対処方法は明らかにされていません。

ウラン残土は、ウランが崩壊する過程で気体の放射性物質「ラドン」を放出します。岡山と鳥取の県境の人形峠では、多くの鉱山労働者が肺ガンで亡くなりました。ウラン残土も放置状態です。リニアの工事を強行すれば、人形峠の二の舞になるのは必至です。

人命より企業利益が優先されてはいけません。リニア建設を直ちに止めるべきです。

週刊『プレイボーイ』の一部より